

プロジェクト課題No.3

生食用ぶどうの ブランド化による生産拡大

対象者：南三陸大粒ぶどう協議会（会員9人）

計画期間：令和6年度～令和7年度

チーム員：◎高橋、村主、門間

1-1 課題の背景(対象の概要)

●南三陸大粒ぶどう協議会

令和5年に町の生産者で設立

会員:11人 栽培面積:約85a(R7.2現在)

<協議会の目的>

- ・高品質ぶどうの生産販売
- ・環境にやさしい栽培(化学肥料・農薬低減、町内未利用資源の活用等)の実施
- ・ブランド化による生産拡大

1-2 課題の背景(ねらい)

- ブランド化支援➡認知度向上・販売力強化
- 技術力向上に向けた支援➡技術平準化・高品質化
- 環境にやさしい取組の導入➡環境負荷低減・付加価値向上



南三陸町におけるぶどう生産量の増加と新たな産地形成

2 今年度の目標

(1) 南三陸町産ぶどうのブランド化

(2) 技術力向上及び環境負荷低減の取組や新技術
の導入

<数値目標>

ブランド化したぶどうの販売量

【R5】 0kg → 【R6】 240kg → 【R7】 300kg

3 活動と成果 (1)ブランド化支援



- ・話し合いの場の設置による意見集約
- ・町の事業を活用したロゴマーク等の作成支援



南三陸町の海と里山が近いイメージ
⇒ブランド名「しおかぜ葡萄」に決定
ロゴマーク、ポスター等の作成

3 活動と成果 (1)ブランド化支援



●目揃え会開催支援

- ・2回開催(8/8、8/23)
- ・果実品質等を会員で目合わせ

・出荷基準を策定⇒品質の統一

- ①房重量が赤・黒系品種で概ね300g以上、黄緑系品種で概ね400g以上で房型が良好なもの
- ②果粒が揃っており、目立った小粒のないもの
- ③病虫害や果皮の汚れ等が目立たないもの

・会員同士で生産物を確認

⇒高品質化に向けた意識の高まり

3 活動と成果 (1)ブランド化支援

●メディアでのPR

多くのメディアに取り上げていただきPR ⇒ 認知度向上

(新聞)三陸新報、河北新報、
日本農業新聞(東北版)、
読売新聞(東北版)

(テレビ)NHK仙台、東北放送、
ミヤギテレビ、東日本
放送、仙台放送

(その他)町観光協会HP、気仙
沼地振SNS等



TBC東北放送「肥料にはカキやホタテの殻 大粒のシャイン
マスカットやピオーネが新たなブランド「しおかぜ葡萄」に
宮城・南三陸町」から引用

<https://newsdig.tbs.co.jp/articles/tbc/1412276?display=1>

3 活動と成果 (1)ブランド化支援

●お披露目販売会開催支援

9/7 会場:さんさん商店街

- ・事前準備(開催時期・会場調整、PR、情報共有、役割分担等)支援
- ・当日の運営支援



○販売前から100人以上の行列！

○販売:519品 売上:475,500円

○用意した519品が完売

△来客多数で個数制限

3 活動と成果 (1)ブランド化支援

●スイーツ等への広がり

町内の菓子店や飲食店で
「しおかぜ葡萄」を使ったス
イーツが販売

⇒ 認知度向上、販路拡大



10月14日 河北新報から引用

3 活動と成果 (2) 技術支援



●巡回指導、研修会開催

- ・定期的な巡回指導により技術の習得・実施を支援
- ・栽培研修会は5月（ジベ処理）、6月（摘粒）、12月（せん定）の3回開催
- ・7月に先進的生産者（2戸）の取組を視察



今作から販売を開始した
会員の果房

- ・誘引、ジベレリン処理、摘粒等の重要管理の適期実施
- ・前作まで果実品質が悪く、販売に至らなかった会員も販売できる品質に

3 活動と成果 (2)技術支援



●環境負荷低減の取組、 新技術の導入支援

- ・メタン発酵消化液の活用に向けた試験施用(7月)
- ・シャインマスカットの果皮黄化・かすり症軽減のため、有色果実袋の利用を展示実証(7~10月)



果皮黄化、かすり
症の発生果
(令和5年)



有色果実袋で袋掛けを
行ったシャインマスカット

- ・会員各自がメタン発酵消化液や貝殻の施用などの取組を実施
- ・シャインマスカットの有色果実袋利用を会員7人が実施
⇒目立った果皮の黄化・かすり
症の発生なし

3 活動と成果 (2) 技術支援

●環境負荷低減の取組、新技術の導入支援

未利用資源を活用した新たな取組の普及による取組強化
「せん定枝の炭化による炭素貯留」

⇒次年度以降、野積や焼却処分されていたせん定枝を炭化し、土壤に施用することで、温室効果ガス削減に取り組む

実演会を2月14日に開催予定



新潟県「無用な果樹せん定枝を炭化
処理して地球温暖化防止に貢献！」
から引用

https://www.pref.niigata.lg.jp/sec/nosoken_engei/saijiki20221102.html

3 活動と成果

●反省会開催支援

ブランド化、栽培管理、販売状況などについての振り返りを実施

●収穫販売実績調査

ぶどう収穫量及びブランド化したぶどう販売量を聞き取り調査

●次年度計画の検討支援

会員との打ち合わせや役員会等で次年度の取組案を提案



4 目標達成状況

(1) 南三陸町産ぶどうのブランド化

⇒「しおかぜ葡萄」のブランド化は順調なスタートを切ることができ、一定の周知を図ることができた

(2) 技術力向上及び環境負荷低減の取組や新技術の導入

⇒概ね達成だが、さらなる支援が必要

<数値目標>

ブランド化したぶどうの販売量

【R5】 0kg → 【R6】 240kg → 【R7】 300kg

【実績】 867kg

●生産量の増加

今作は消費者、実需者からのニーズに応えきれなかった

⇒収量向上による「しおかげ葡萄」生産量の増加

PR等による新たな生産者の掘り起し

●実需者との連携強化

菓子店等「生産者や品種毎の収穫量・収穫時期がわかると、
もっと商品を作りやすい」

⇒会員、品種ごとの収穫時期・収穫量の情報共有

●栽培面の課題への対策

課題	対策
裂果の発生	・適正着房数を守る、大房にしない ・適正樹勢への誘導 など
着色不良 着色遅延	・適正着房数を守る、大房にしない ・副梢管理による棚面の明るさ確保 など
日焼け	・カサ掛け ・土壌の乾燥防止 など
うどんこ病の発生	・適期防除の徹底

●環境負荷低減の取組の強化

- ・せん定枝の炭化による炭素貯留の取組の導入支援
- ・「見える化ラベル」の取得による付加価値向上も視野に

せん定枝の炭化による
炭素貯留



農林水産省
「見える化ラベル」
栽培における温室効果ガス削減の取組を
削減レベルに応じて
星の数で表示できる
制度



6 対象者からの意見

令和5年の協議会発足以来、栽培指導はもちろんのこと、ブランド化についても支援いただき、大変ありがとうございます。9月に開催した販売会では多数の来客があり、用意したぶどうが完売するなど大きな成果がありました。会員の皆さんも意識が高まり、より良いものを目指そうと良い関係ができました。

新たな課題も見えてきましたので、引き続き支援をお願いします。

（南三陸大粒ぶどう協議会長）